

序

文

本論文は当部安江研究員以下の各氏の共同研究である。従来から職業訓練校における実技の訓練においては、単位作業を抽出してそれを指導員の努力で集団授業で教えるという方式が採られている。このやり方は効果はあるにしても各指導員の演技能力に著るしく依存していることは否めない。この研究は、ILOのモジュール訓練やプログラム学習の考え方にヒントを得て、熟練者の能力を単位作業にこだわらず技能にまで分析し、それを実技の学習設計に明確に反映させることを試みたものである。それによって学習の個別化をはかり、最終的には指導員から授業進行の負担を減らして、実技内容の細部指導に専念できるようにすることを狙った。溶接の訓練に対して、今迄の試行段階ではこの目標はほぼ達せられたと考えられる。

また、本研究は成人訓練のための随時入校システムの実現に対してもなにかしかの寄与をするものと考えている。

本研究は訓大溶接科の諸先生はもとより、神奈川県の大絶大など援助とご協力によって纏ったものであることを付言して、著者らと共に感謝の意を表させて戴きたい。

昭和52年2月22日

調査研究部長

宗 像 元 介

自学自習方式によるアーク溶接訓練システム

随時入校・随時修了のためのモジュール訓練

研究担当者	調査研究部	安	江	節	夫
		石	橋	泰	彦
	訓練部指導科	室	田		俣